

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092100021		
法人名	財団法人 榛名荘		
事業所名	グループホーム榛名荘		
所在地	高崎市下室田町965-1 (電話)027-374-8118		
自己評価作成日	平成22年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成22年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様々が安心して毎日を送れるように、アセスメントを行い介護支援の方法についてカンファレンスで共有し、実行できるように努力している。また、徘徊には静かに寄り添い、緊急やむ終えない場合を除き、鍵を掛けず、自由に入出入りできるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道沿いの町中にあり、グループホーム、小規模多機能ホーム、デイサービスセンターなどで構成する「総合ケアセンター榛名荘」の一施設として存在する。総合ケアセンターの敷地の駐車場脇には、地元の野菜などを販売するテナントショップの売店、食堂、喫茶室があり、地元の人も訪れ、施設利用者との交流の場となっている。事業所は、地元の床屋、寿司屋、ソバ屋などの地元商店との関わりを大切にしている。また、地元の祭りの花飾りを事業所の職員と入居者で作成したり、地元の祭りなどに参加したり、ボランティアの事業所訪問や中学生の体験学習の受け入れなど、地域との交流が行われている。入居者一人ひとりが安心して毎日を送れるよう、例えば、外出願望の強い入居者に対しては、寄り添いながら散歩に出かけたり、玄関先のベンチと一緒に腰掛け、入居者の言葉に耳を傾けたり、声かけをしたりするなど、入居者の思いや意向の把握に努めながら支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を理解するように職員どうしでカンファレンスなどの機会を利用して話し合ったり、理念について確認したりしている。	管理者、介護支援専門員は、日常のケアを通じ、職員の疑問などに対し、理念に照らしながら説明、助言、指導を行い、理念の共有、実践に努めている。現在、これまでの経過や地域密着型サービスの意義を踏まえ、理念の見直しを検討している。	職員全員参加により話し合い、地域密着型サービスの意義を反映した理念の見直しを実現されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理念は全職員で共有し、より良い認知症介護について話し合い、日々理念を実践しようと努力している。	国道沿いの町中にあり、床屋、寿司屋、ソバ屋などの地元商店との関わりを大切にしている。地元の祭りの花飾りを事業所の職員と入居者が作成したり、地元の祭りなどに参加したり、ボランティアの訪問や中学生の体験学習の受入れなど、地域との交流が盛んに行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物や散歩に出ることにより地域の方々と顔なじみになり、認知症の方に対する理解を深めていただいていると思われる。また、地域の中学生の職場体験を受け入れたり、職員が地域の高校のヘルパー研修に出掛け、認知症の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会で出された意見などは必ず議事録として記録し、職員個々が目を通し参考にしている。	運営推進会議は、併設の小規模多機能ホームと合同で、2ヶ月に1回開催し、事業運営報告や外部評価結果などが議題に掲げられ、意見交換が行われている。会議で出席の民生委員から一人暮らしの老人について取り上げられ、事業所の利用者となったケースもある。近隣の協力者や利用者の会議参加を検討している。	家族のより多くの参加を図ると共に、近隣の協力者や利用者の参加により、より一層の意見等の反映がなされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホームの空き情報などを包括支援センターに提供しながら、当ホームの状況を知っていただくようにしている。 定期的に介護相談員の方に来ていただいて、利用者さんの話を聞いていただいている。	介護保険の内容等について、市の担当窓口にご相談等を行ったり、市の介護相談員を活用するなど市との連携に努めている。また、包括支援センターと事業所の空き情報の提供などを通じ、関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は緊急、やむをえない事情が無い限り常に鍵を開けておき、自由に出入りしていただいている。	入居者の尊厳を基本に、身体拘束をしないケア実践に向け、検討会等を行っている。また、生命に危険がある時などのやむを得ない場合の身体拘束に関する説明書を作成し、対応している。身体拘束の具体的な行為の内容について、職員も時々戸惑うこともある。鍵をかけないケアについては、入居者に寄り添い、見守る中で実践している。	身体拘束の具体的な行為の内容について、手引書などにより理解を深めると共に、日常のケアを通じ疑問に感じることをカンファレンス等で職員同士でよく話し合い、共通の理解に繋げることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	対応困難な事例がある時には、カンファレンスをもち、対応について話し合い、その情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援サービスを受けておられる方が2名おられ、社会福祉協議会の担当者との後見制度への移行についても相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は契約書に基づいて実施しており、解約時は状況に応じて家族と話し合い円滑に行われるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、お茶会やクリスマス会などを開き家族との話し合いの機会としている。	家族と接する時に、家族が意見や要望等を言いやすいように雰囲気づくりに努めている。また、お茶会やクリスマス会などを開催し、家族と率直に話し合う機会にしている。玄関口に意見箱を置いたり、意見や苦情などの相談窓口や相談体制について詳細に明記している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回はカンファレンスを持ち管理者も都合の付く限り出席している。	月2回実施しているカンファレンスで、職員が自由に意見等を表したり、日常ケア活動を通じ疑問に思っていることなどを活発に話し合える環境にある。その他、管理者や介護支援専門員は、職員からの相談等に気軽に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員が向上心をもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアセンター内で研修会を定期的に持ち、参加しやすいようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの交換研修に参加させてもらっている(今年度より)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に利用者の情報を聴き、日常生活を送るうえで必要な支援を見つけ出している。その人にとって適切な人間関係を気づけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と利用者の関係を把握して、不安に感じている事などに対して相談しやすい環境を作るように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人と家族の両方から話を聴き、利用者にとって必要とされる支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人の個性を活かし、「一人の生活をする人」としてサポートできるように日常生活に必要な事柄を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホーム便りを毎月発行して家族への情報発信手段としている。また通院や季節の衣類の入れ替えなどを大切なかかわりの機会と捕らえて接している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会や知り合いの方の面会など、特に面会時間は設けておらず、随時対応している。	職員は、入居者の馴染みの場や人を把握し、共有している。家族や知り合いの方の面会については、時間制限等を設けず支援している。職員が入居者の墓参りに同行したり、昔ながらの馴染みの医者や大家・店子などの関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の様子を見ながら関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、支払いや近くに来たから、などの用事で立ち寄られることもあり、そうした機会には近況などをさりげなく伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前後に本人と家族に確認している。	入居前後に本人や家族に確認すると共に、日常のケアの中で、寄り添い、傾聴し、声かけをしながら、入居者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを利用して入居前と入居後を通して確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画作成時にアセスメントして確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが作成する介護計画をカンファレンスで話し合い、変更点があれば修正して介護計画を作成している。	本人や家族の希望などを聞き、当面の介護計画を作成し、経過等をみながらカンファレンスで検討し、介護支援専門員が介護計画書を作成している。入居者の心身の状態に変化のある場合は、介護記録やモニタリングなどをもとに、家族の意向等を反映させながら、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方々から気軽に声を掛けていただいたり、徘徊の方等は見守っていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を尊重して対応している。	本人や家族の希望を尊重したかかりつけ医の受診支援を行っている。ほとんどが従来からのかかりつけ医を利用している。基本的には、家族が同行し受診しているが、必要に応じ、職員が代行し同行している。かかりつけ医や主治医との連絡を密にし、適切な医療が受けられる支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はできるだけ看護師が付き添い状況や経過を伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームの現状を踏まえ、家人と話し合いながら実践している。	当初からの取り決めではないが、入居者の容態変化に伴い家族の希望等を確認し、主治医から指導・助言を受けながら、看護師である介護支援専門員を中心に、職員と共有し、看取り介護を実践している。現在、入居者が重度化した場合における対応に関わる指針が作成されており、入居者の重度化及び看取り介護の体制、対応などを明記している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新入職員にはグループホーム協会が行う研修に参加してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回実施している。	年2回、火災訓練を夜間想定も取り入れ、うち1回は消防署の指導の下実施している。地震想定訓練は実施していない。火災が発生した場合の火災避難手順が書式化され、現場確認・初期消火・通報・避難の一連の内容となっている。近隣住民の協力を盛り込んだ地域防災協力体制を取りたい意向である。	災害時に避難できるよう「火災避難手順」が活用されるように、近隣住民の協力体制が図られることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導時の声掛けは、耳元で伝えるように意識している。また、尿汚染などに気づいた時は、そっと自室に誘導し戸を閉めてから更衣を支援している。	排泄誘導時の声かけなどは、耳元で小声で伝えている。また、失禁時などは、そっと自室に誘導し、更衣を手助けしている。個人情報の記録類は、事務室に保管し管理している。戸外での外部者からの声かけに対し、新人の職員は対応に戸惑うこともあり、管理者や介護支援専門員がプライバシーを配慮した助言等を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人から希望が出た時には、なるべく希望に添えるように支援している。(食事や外出、入浴など)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れを基本として、その中で個々のその日の状況に合わせて過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ちぐはぐな服装をしている時には、さりげなく誘導して、更衣を促す。 朝のケアの時にはホールへ来る前に、一度鏡を見ていただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて支援できるように努めている。	献立は職員が考えている。特別の献立は、デイサービスの栄養士に相談している。食材は、入居者と近隣の店で購入している。入居者は、職員と一緒に食事を楽しんで食べている。入居者は、食卓を拭いたり、時には、野菜炒めやインゲンの胡麻和えの下ごしらえをしたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一週間の献立を考え、定期的に体重チェックを行いながら、食事の量や水分量を十分に取れるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄サインを観察して声掛けや誘導、着脱介助などを行っている。	個々の排泄サインを観察して、声かけや誘導、着脱介助などを行っている。介護計画書の中にも入居者の状態などが项目的に記されているが、自立に向けた排泄支援との関係が明確ではない。	一人ひとりの習慣、特徴などを把握する中で、入居者の状態などを自立に向けた項目として捉え、能力を活かしての排泄の自立支援に繋げていくことを期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に取り、野菜類を食事に積極的に取り入れるようにしている。また、医師の指示のもと下剤の使用で対応する場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日は時間を決めずにゆっくりと入浴できるように支援している。また、入浴日以外でも清潔支援が必要とされるときには、対応している。	週3回(月・水・土)、時間を決めずゆっくりと入浴できるよう支援している。入浴以外の日でも清潔支援の観点から、必要に応じ対応している。熱くない湯を好む人以外は、特に順番を決めず適宜入浴して頂いている。入浴を拒否する入居者はいないが、場所の認識がない入居者に対しては、言葉かけを工夫して誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や夜間の睡眠の状況を勤務職員で共有して、必要時は昼寝を促したり、休憩を取っていただいたりしている。どうしても不眠状態が続く時には主治医と連携を取り安定剤の使用を検討する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が服薬管理を行っており、必要な情報はカンファレンスや申し送りノートを使って職員が共有できるように勤めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で個々の能力に応じた家事支援を行うと共に、利用者同士が会話を楽しめるように支援をしたり、植物の世話などを通して充実感を味わえるように支援したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添えるように支援している。(近所のかかりつけ医への受診、お墓参り、お買い物など)	入居者全員で花見などに出かけているが、全員での外出行動は少なくなっている。天気の良い日は、散歩や買い物に出かけたり、墓参りに職員が同行したり、個別的な支援をしている。外出願望の強い入居者には、職員が寄り添い、声かけしながら散歩に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方よりお小遣いをお預かりして、本人の希望に合わせて使えるようにしている。 (高額になる時には家族に確認している)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な方には支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じながら居心地良く過ごせるように、換気や明るさ、室温などに気を配っている。	居間兼食堂は、一部分量のスペースがあり、テレビを設置している。コーナーには、その日の献立を掲示板に表示し、壁には、廊下を含め、行事などの入居者のスナップ写真などが掲げられ、生活感のある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを二つ並列に並べて、気の合う同士が並べるように支援したり、一人になりたそうな時には、自室へ適宜誘導したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の希望等も配慮しているので、必ずしも本人の好みとなっていないが、できるだけ落ち着けるように写真やカレンダーなどを掲示するなどの工夫をしている。	居室には、洗面所、トイレがあり、畳の上に事業所の用意したベッドが設置されている。スナップ写真やカレンダーなどが掲げられ、中には、仏壇、家具、こたつ、テレビなどが持ち込まれており、落ち着いた空間になっている。居室からフラットのベランダに出られ、外気に直に触れることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家族の意向を確認して、居室に名前を掲げたり、飾り付けを工夫したりしている。		